



雲林寺報 第21号



2016年8月発行

曹洞宗大洞山 雲林寺 群馬県吾妻郡長野原町長野原73 電話0279-82-2201 ホームページ <http://unrinji.jiin.com>

みんなの心に手を合わせる

お盆では各家ごとに迎え火を焚いて御先祖様を迎え、終ると送り火で送ります。

「亡くなった人、あるいは自分のご先祖さまの霊はどこから来てどこへ帰るのか」という素朴な疑問もあるかもしれません。しかし、ただただ手を合わせる。それでいいではありませんか。いずれ、私たちも御先祖さまになるのです。

お正月、年神様をお迎えし手を合わせる。春彼岸、お墓参りに出かけて手を合わせる。お盆、御先祖様をお迎えし、手を合わせる。秋彼岸、お墓参りに出かけて手を合わせる。

故人の命日になったらちよっと長めに手を合わせる。右手と左手を合わせると楽しい時は多くの手に報告したくなる。悲しい時は、みんなの涙を受け止めてくれる。怒りたい時は、右手のこぶしを左手が包み込む。間違った時には「こらこ」と声がする。決意した時は「よしっ」みんなの右手と左手の後押しがある。だから毎日まいにちみんなに手を合わせる。

「手を合わせる」この行為そのものが大切ですが、私たちは手を合わせ、いろいろなことを願い、祈り、救いを求めます。それは私たちだけではありません。私たちの御先祖さまも私たちと同じように手を合わせられました。例えば「御先祖さまから継承されたいのちがより豊かに代々続いて欲しい」「仏様がいつも見守っていて下さる」このことを願い、一心に手を合わせてきました。しかも私たちが知らない時代に知らない所、顔も見たことのない多くの人たちが私たちのために手を合わせてきました。

私たちは祈られてきました。私ひとり手を合わせるのではなく、合わされてきたのです。合掌は多くのいのちの合掌です。

悲しい時には悲しさから逃げてはいけません。どんな悲しい事がおきても、それにふさわしい深い心の安心が、合掌の中から必ず生まれてきます。

二十九世位職 轟 紀久

護持会たより

六月二十日、草津ホテル櫻井にて護持会総会が開催されました。(出席者 二十六名、委任状十三名) 詳しい内容は護持会より資料が配付されますのでよろしくお願ひ致します。

今年二月に元総代の宮崎昭央様が、四月に総代の野口敏幸様が永眠されました。生前のご厚誼に深く感謝いたしますと共に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。野口様は貝瀬地区の世話人も兼任されておりましたが、後任に佐藤良平様に引き受けて頂きました。



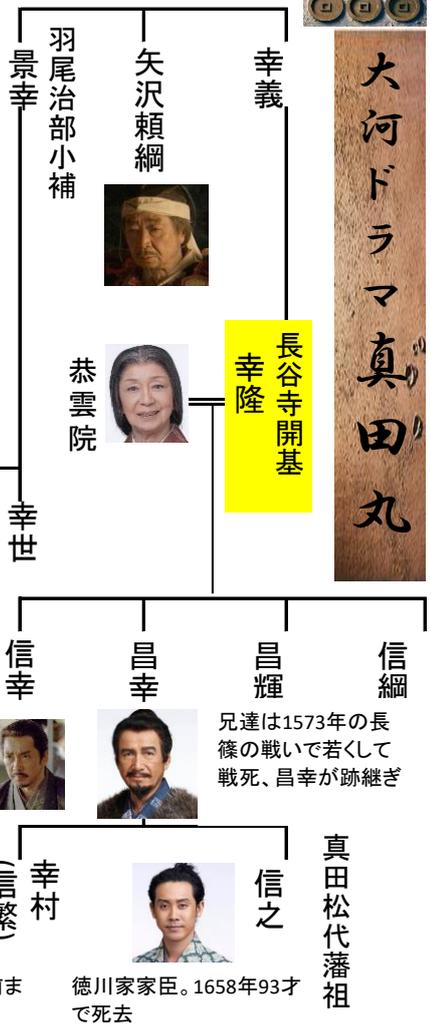
町外檀家の皆様へ

年に二回の寺報と護持会報告、護持会費の案内の他、御札等を送付させて頂いております。住所等の変更がございましたら、お手数ですがご連絡頂きますようお願い申し上げます。尚、葬儀、法事は県外へも出向きますので遠慮なくご連絡下さい。





大河ドラマ真田丸

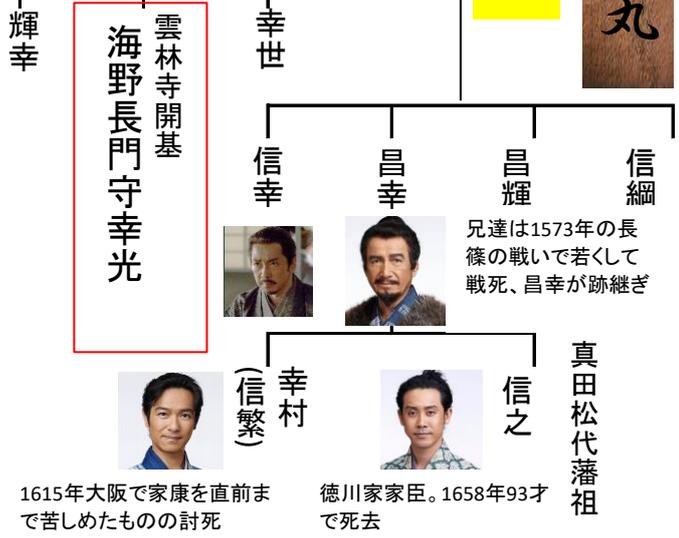


今年のNHK大河ドラマ「真田丸」当山周辺も「真田街道」の旗が多くみられます。ドラマは武田家臣だった昌幸の時代から始まりましたが、それより少し前の時代、昌幸の父である幸隆は武田信玄の命で岩櫃城を攻略。以後吾妻守護代となり、この周辺を整備したとされており。

真田町誌には、幸隆の時代が多く記載されており、当山も幸隆をかくまっていたなど、真田家に非常に関係がございますので紹介させていただきます。

真田町誌 第三章戦国時代より
海野平の合戦（一五四一年上田市）で海野に合力した幸隆は武田に敵対する上杉家臣の重臣、箕輪城主長野業正を頼ることになった。このことは幸隆にとって、本拠地である真田郷を追われる結果となった。

本拠地を追われた幸隆は、真田町と孺恋村の県境にある鳥居峠越えで羽尾城主の羽尾幸全のもとに、ひとまず身を寄せることになった。（略）いったん羽尾に落ち着いた幸隆はさらに箕輪城を頼ることになるが、どのような経路をたどったのであろうか。（略）



平成五年、長源寺（当山の本寺）の老僧は次のように語ってくれた。
「真田の方では幸隆は箕輪城へ逃れかくまってもらい、いつしか異運和尚と近づきになり、真田への帰郷のとき同僧を伴い長谷寺の開山としたといわれているが、私は違うと思う。吾妻郡の長野原町に長源寺九世為景和尚（長野業正の弟）が開いた「雲林寺」と称する長源寺の末寺がある。羽尾氏の好意で幸隆はその雲林寺に世話になった。そこで異運和尚と会い、つれだつて長源寺へ参り保護されたという伝承がある。」

「箕輪町誌」は「幸隆は箕輪城に身を寄せた」としており、長源寺のことははふれていない。しかし当時西上野をおさえていた長野氏を頼むにしても、敗走してきた幸隆を城内又は城下町にかくまうことはむずかしいのではないか。（略）名目上は箕輪城であつても、

実際は長源寺であつたとみる事の方が、真実に近いように思われる。

六月八日、吾妻歴史探訪の団体が来寺されました。真田家をテーマに当山の他、海野長門守幸光の墓碑や長野原城跡、羽根尾城跡、常林寺等半日かけて巡る行程でした。
又、大河ドラマの影響からか遠方より来寺されるお客様が多くなりました。



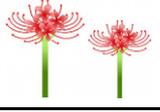
上 吾妻歴史探訪様
下 歴史勉強会様

秋彼岸

九月 十九日(月)彼岸入り
二十一日(水)彼岸中日
二十三日(金)彼岸明け

「暑さ寒さも彼岸まで」

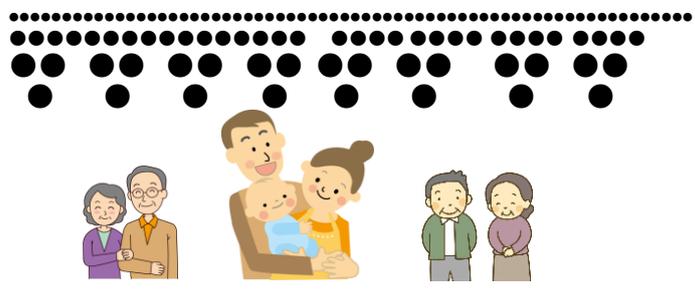
厳しい残暑も彼岸の頃には和らいで過ごしやすくなるというので、この言葉には、どんなに辛いことでもいつかは和らぐとの優しい気持ちを感じます。もともと仏教に由来する「お彼岸」は「先祖をうやまい亡くなった人々をしのぶ」日だとされております。大切な人を亡くされた経験のある方にとってはとても大切な日です。お墓参りに行ったり故人の好きだったものをお供えしたりして過ごされるのではないのでしょうか。



続く「いのち」

あなたのいのちは遠い過去から続いており、未来へも続いていきます。
あなたのいのちがお父さん、お母さんのいのちがあったからこそ生まれました。
そのお父さんお母さんもそれぞれのご両親のいのちがあったからこそ誕生できた……つまりあなたのいのちの誕生のために、わずか二代前にさかのぼって見るだけで、六人のいのちが必要だったことがわかります。ちなみに十代前までさかのぼると一〇二四人。二十代前までだと、なんと一〇四万八千七百人というすごい数字になって、この中のたったひとりのいのちで生まれることはできなかつたのです。つまり、いのちは脈々と続いていくということに他なりません。
曹洞宗宗務庁出版より

2代前 6人
10代前 1,024人
20代前 1,048,857人



梅花流たより

越中富山市において平成二十八年梅花流全国奉詠大会の開催を迎えました。今年も全国から講員の皆様が富山市総合体育館へ一堂に会し二日間同じプログラムで奉詠大会が行われます。

群馬県宗務所では大会前日に富山県と長野県にまたがる立山黒部アルペンルートを散策してから翌日大会にのぞむという行程でした。

室堂は標高二四五〇メートルの高地で上着は必需品ですがこの日は雲ひとつなく風もない好天気恵まれ上着が暑く感じられたのは多分私だけではないと思います。こんなことから雪の大谷ウオークの通行証は良い記念になった事と思われまます。真っ青な立山連峰を間近に、遠くにはアルプスの山々の大パノラマを心に焼付け高原バスへと戻りました。途中、落差日本一という「称名滝」をバスをとめてゆっくり見る事もできました。

大会当日は富山のプロアマチンドンマンから選抜されたメンバーが私達を迎えて下さいました。珍しいちんどんやさんを実際に目の当たりにして皆様大喜びでした。

開会式では大本山永平寺貴首であり大会総裁であられる福山諦法師をお迎えし心あたたまるご挨拶を頂きました。併せて自然災害並びに熊本地震被災物故者追悼法要も行われ追善供養御和讃の奉詠がありました。式典の後、登壇奉詠です。両日とも十二組行われましたが、全国各講での練習の成果が実りとてもレベルアップされたように思いました。群馬県は神奈川県と合同登壇でした。

清興では越中おわら節を三味線、太鼓、尺八の生演奏で哀調の中に優雅な趣を感じさせる踊りのように感じられました。閉会式はいつものように浄心で心を整え「まごころに生きる」を大合唱のうちにフィナーレとなりました。

轟 美代子



全国大会の様子 5月18日～19日



講員紹介

- (上段右より)
- 中澤至子様
 - 山本節子様
 - 佐藤ふさ子様
 - 渡辺しず子様
 - 篠原禮子様
 - 吉崎栄子様
 - 常林寺講員様
- (下段右より)
- 篠原節子様
 - 山野栄子様
 - 宮崎八子様
 - 轟美代子様
 - 宗務所教化主事 宗務所長 宗務所長
 - 群馬県宗務所長 常林寺族所長
 - 落合雅子様
 - 依田つ子様
 - 山崎トシヨ様
- 都合により
- 欠席の講員様
 - 武田ナヨ子様
 - 飯塚もも子様
 - 富澤ふじ江様
 - 市川孝子様
 - 吉澤かず子様
 - 中山淑子様
- 新しい講員様
- 宮崎恵美子様
 - 原澤幸子様

あなたも歌ってみませんか

梅花流詠歌「まごころに生きる」より

ほほえみひとつ
涙ひとつ
出逢いも別れも抱きしめて
生きていく今を愛して行こう

第八回雲林寺親睦ゴルフコンペ
開催日 十月十日(体育の日)
場所 草津カントリークラブ
今年もゴルフを楽しんでいる檀信徒様の親睦を深めたく、開催致します。過去参加者にはお葉書きで通知致します。新規の方も是非ご参加ください。ご連絡頂ければ詳細をご案内致します。

坐禅会と茶話会のご案内

日時 九月二十四日(土)午後二時～

お彼岸中に初心者坐禅会を行います。坐禅の時間は指導も含め一時間程です。坐禅会後は情報交換や他愛のない世間話を、お茶をしながら楽しみませんか？多くの参加者をお待ち申し上げます。

編集後記

ちょうど二十年前の春三月、発心して(正直イヤな気持ちもありましたが)大本山永平寺に上山しました。あれから二十年の月日が流れましたが、その間、たくさんのものを捨て、たくさんものを授かってきました。授かったものはすべて出逢いから生まれたものです。

我逢人(がほうじん)という禅の言葉があります。これは人と人との出逢い、心と心の出逢い、人と物との出逢いの尊さを表した言葉です。人は自分と違う領域を持って生きています。だから出逢いは自分自身を広く深く成長させてくれます。これから先も人と逢うことを大切に、人に逢える場を大切に、そして人と逢う姿を大切にしたいものです。

副位職 轟 省吾